

## 《教育長メッセージ 第40号》

### 『夏休み』

7月20日が海老名市立小中学校の第一学期の終業式でした。そして、子どもたちは、始まった頃には、永遠に続くように思える「夏休み」を迎えたことでしょう。



今年から、夏休みの終わりが5日間短くなります。27日から第二学期が始まるのですが、今年は27、28日が土日なので、29日が第二学期始業式となります。

夏休みが短くなったことを子どもたちは残念がっているでしょうが、ほとんどの保護者が8月中旬を過ぎると、早く学校が始まってくれないだろうかと思うようで、また、多くの子どもたちは、宿題が気に掛かりながらも、早く友だちに会いたいので、学校が始まらないかなあと思うようです。

何より、すべての子どもにとって、素敵な夏休みでありますように！

私の子どもの頃の夏休みの記憶は、さまざまあるのですが、二つ紹介したいと思います。

一つ目は、終業式の日在校門を出る瞬間です。

とにかく、私は、夏休みを指折り数えて待っていました。その日が来るのを待ち焦がれていました。

終業式の日、午前中で学校が終わりになります。通信簿とともにたくさん荷物を持って帰ります。

帰りのあいさつと同時に、教室を出て、校庭を走って抜けて、校門を出ます。校門を出ると、何とも言えない開放感で、家に帰るまでの町の景色がキラキラ輝いて見えました。

私には、夏休みが永遠に続くように思えました。

校門を出る、あの瞬間の心地よさを記憶しているのです。

二つ目は、海です。

南三陸の海の町でしたから、夏休み＝海でした。

お盆になるまでは、毎日のように午前午後と海で泳いでいました。

海の中にいました。まさに、我は海の子でした。

町にはいくつか海水浴場がありましたが、私のホームグラウンドは、家の近くの大森海水浴場でした。海から海水浴場までは数百メートルで、走ればすぐそこが海でした。

大森海水浴場には、飛びこみ台が2台設置されていました。私は、その間を行ったり来たりすること、友だちと競争することが好きでした。また、遊泳区域を示した赤旗のついた竹の棒を渡り泳ぐのも好きでした。

暑いから海水浴に行くというよりも、一年中見ている海に、入ってよいという期間だから、その間は毎日、海で泳ぐという感じでした。

子どもの頃の私の夏は、海の中にありました。

さて、今頃、海老名の子どもたちは、どんな夏休みを過ごしているのでしょうか。

宿題は進んでいるのでしょうか。

約35日間の自由を、楽しんでいるのでしょうか。健康面でも安全面でも、今は、私が子どもの頃と違って、子どもたちが、友だちと外で好きなだけ遊べる環境ではありません。

その点では、「えびなっ子スクール」や各種社会教育団体や施設の活動や夏休み教室などがありますが、夏休みとしてのゆっくりと時間をかけておこなう自由な活動の機会を確保することについては、さらに、検討しなければならないと考えているところです。

大人として、子どもたちの素敵な夏休みを応援しましょう！

次回は、学校の「教職員研修」について、みなさんに説明し、私の考えを述べてみたいと思います。